

優しく強い子に!



<http://www.minamih.net/>  
18・12・9(日)  
南NEWS no 105

## Noblesse Oblige

### 気高く気品ある行い

12月1日(土)は2年生の懇親会でした。その席でシンヤ君のお父さんにスライドを使ってレクチャーをしていただきました。シンヤ君のお父さんはお医者さんで、国境なき医師団に参加したり、九州の中村哲医師と共にアフガニスタンで砂漠に運河を引いて緑の大地に変えて人々に食べものと平和な暮らしをもたらし、医療活動もされている方です。最初の画面はロシアワールドカップで準優勝を成し遂げたモドリッチ選手率いるクロアチア代表チームの写真でした。「どこのチームですか」子どもたちは何人も手を挙げました。画面にどの子どももしっかりと惹き付けられています。



ロシアWカップ・クロアチア代表

次は戦火によって破壊されたクロアチアの市街地の写真。「つい最近まで戦争をしていた国なんだよ」とのお話が続きました。

3枚目は「今、戦争をしている国です」今戦争をしている国を色付けした世界地図のスライドです。

4枚目は「5歳まで生きられない子どもがたくさんいる国です」アフリカの国々とアフガニスタンに色付けされています。

5枚目はアフガニスタンの砂漠に運河を造成する工事に、現地の人たちと一緒に携わっている西野さんの写真。

6枚目は現地で医療活動をされている西野さんの写真でした。

子どもたちのレディネスを考慮されたとても短いレクチャーでしたが、西野さんが子どもたちに学んでほしかったことは、しっかりと伝わるプレゼンでした。

他の学年の子どもたちにも若い先生達にも受けてほしいレクチャーでした。

西野さんに子どもたちに贈る言葉をとお願いしました。

『世界中に友だちをつかってほしい』という言葉を書いてくださいました。

いつか他の学年の子どもたちにもぜひ学んでほしいと思います。今月の10日から2ヶ月、国境なき医師団の一員としてバン格拉デッシュに赴くそうです。

お帰りになったらご都合の良いときに、学ばせていただく機会をぜひお願いできればと思います。

Mr.Noblesse Oblige 西野さんに学んでほしいです。



爆撃で破壊されたサラエボの図書館



バルンドール受賞のモドリッチ

※2009年から2017年はメッシかロナウドのどちらかが受賞。

※モドリッチ選手は1985年9月9日、クロアチアのザダルで生まれました。ボスニア戦争中にセルビアの侵略から逃れた難民の元に生まれたのです。

彼は1990代に起きた旧ユーゴスラビア紛争に5歳の頃から巻き込まれ、少年時代の彼が所属したクラブはボスニア・ヘルツェゴビナのモスタルという街にあり、モスタルでの戦火は厳しかったそうです。

12月6日(木)朝日新聞 朝刊 コラム

『サッカーのチカラ ボスニアで見た希望の種』より

……彼の少年時代の苦難について、こう触れた。

〈1990年代の旧ユーゴスラビア紛争に巻き込まれ、故郷を追われた。水も電気も来ていないホテルに身を寄せ、爆発音や銃声を聞きながら育った。ホテルの小さな駐車場でボールを蹴っているときだけは、明るい未来を思い描くことができた〉

※モドリッチ選手は、衣服すら不足していて貧しく不自由な生活を強いられる毎日でしたが、ボールを蹴っているときは生き生きとして、周囲の人から観ると〈何かを持っていることを観ることができた〉そうです。

爆発音や銃声を聞きながら、不自由な生活を送りながらもボールを蹴り続けたモドリッチ選手の少年時代。何か学ぶことができますね。



## 川村さんもNoblesse Oblige

青森のリンゴ農家の川村さんが今年も南のバザーに一箱のリンゴをプレゼントしてくれます。今年は台風の被害やたくさんの盗難の被害があり、リンゴの値段が高騰しているのにいつもの値段で販売してくれます。とても有難いです。川村さんの一箱、南のアンパンマンの一箱で二つのリンゴの箱がバザーに出ます。蜜たっぷりのリンゴです。美味しいですよ。

西野さんや川村さん。身近に素敵な方がいらっしやることは幸せです。

